

わたしたちは、信頼と希望と愛の輪で社会をつなぎます

SSKP
いずみ
2007年12月

No.
147

社会福祉法人 泉会

法人本部 泉の家 〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番23号
☎03(3417)3451(代) ☎03(5494)7533
izumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/izumi/
日の出舎 〒190-0182 西多摩郡日の出町平井3030番
☎042(597)1451(代) ☎042(597)2205
info@hinodesha.org
http://izumikai.jp/hinode/
岡本福祉作業ホーム 〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番24号
☎03(3415)3366(代) ☎03(3415)4976
okamoto@izumikai.jp
http://izumikai.jp/okamoto/
岡本ホーム玉堤分場 〒158-0087 世田谷区玉堤2丁目3番1号
☎03(5707)9431(代) ☎03(5707)9433
tamatumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/tamatutumi/

一九七七年十二月三日第三種郵便物認可(毎月一、二、三、五、六、七の日十八回発行)
二〇〇七年十一月九日発行(「SSKP増刊通巻二六五六号」)



秋の販売会シーズン到来!! 工賃UP目指して頑張ります!! (岡本ホーム)

本年の聖句
愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。
(コリントの信徒への手紙I 13章4-7節)



理事長 橋向敏治

支えあう社会に

光陰矢の如し、早くも師走を迎えました。誰しもが過去に楽しい、幸せな思い出があり、又悲しい、つらい体験もして残ります。つらかった過去と向き合うことは、あまりしたくありませんが、そこから一歩前進して、自分の人生に何かを学び取る姿勢は、生きる励みになります。

泉会の五十三年間の歩みのなかでも個人の体験と同じく、苦い経験があります。過去の反省に立ち、泉会も少しずつ良い方向へ変ってまいります。内なる人は常に新しく変われます。何が悲しいかと言えば、失敗することではなく、失敗したところから、何も新しいものを学ばないことが、一番悲しいことだと思います。

つらい体験から向き合って経験し、そこから学び未来に生かして希望を持つ事ができれば幸いです。福祉社会に市場競争原理を持ち込み、利用者への自己負担を負わせる21世紀の福祉姿勢は、どこか大切な社会の調和が崩れて行く恐れを感じます。人それぞれに甘い・辛い・苦い味の個性があります。互いにその個性を認め尊重する社会が大切です。異なる利用者・職員の個性が集まり調和して、泉会の施設が成り立っております。個性を大切にして互いに支えあうこと。本当の個性は、調和のためにあり、調和は個性を育てるためにあります。身体中でも見えない弱い部分が大切です。弱く見えるところが、全体のために必要なのです。弱い立場にある人の存在を認め光をあてるのが、求められております。泉会の各施設ではそれぞれビジョン(抱負)を掲げてその実行に取り組み成果を挙げつつあります。今後とも皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

泉の家事業展開

現在の岡本町に泉の家が建築され、四十三年の月日が経ちました。その間、変わらぬ、心温かいご支援があったからこそ、こうして今日まで、活動を継続出来てきたこと、感謝を心より申し上げます。

当時、泉の家が建設され、成城学園駅から泉の家まで、バスが運行されるようになりました。また、障がいのある方々の施設で、高層階の建築・エレベーターが設置されていることで、話題になったと聞いております。現在は、老朽化により躯体面や設備面で不安のある状況となっております。障がいのある方々が安心・安全に利用できる施設の建築が急がれました。

事業展開!

橋岡理事長の指揮の下「泉の家事業展開検討委員会」が組織され、新たな泉の家の建替え計画を作成いたしました。

・一九九七年より、近い将来のため、老朽化対策の検討を進めて参りました。

・二〇〇三年度、支援費制度が導入され、利用される方と契約を結び、障がいのある方が主体的に施設を選ぶようになりました。施設は経営能力が求められ、経営コンサルティングを活用しました。

七月に、入所定員を五〇名から四〇名に変更しました。(入所している方々の住環境を少しでも改善するため)

・二〇〇六年度に、障害者自立支援法が施行され、新事業体系への移行や住宅支援の強化。また、利用料の一割負担及び食費の実費負担をすることになりました。

・二〇〇七年四月には、空き居室を整備して短期入所事業を申請し、六月から受入を開始しました。

七月には、泉の家の建替え計画の事業計画を作成し、国庫補助を受ける手続きのために「平成二〇年度、障害者(児)施設整備」に申請をいたしました。

泉の家、建替え計画

- 旧法、身体障害者入所授産施設から、新法の通所事業に移行します。
通所事業に移行することで、入所している方々には、地域移行や他施設への移行など、住み慣れた場所を離れることになり、ご迷惑をお掛けいたしますが、このままでは、安心・安全が守られない状況となってしまうのでご理解をいただいています。
- 現在の施設を解体し、そこに新たな事業所の建築をいたします。
建築期間中の代替の場所で、事業を継続する必要もあるので、それらの整備も同時に行なっていくこととなります。
- 新事業体系は、多機能型の事業になります。

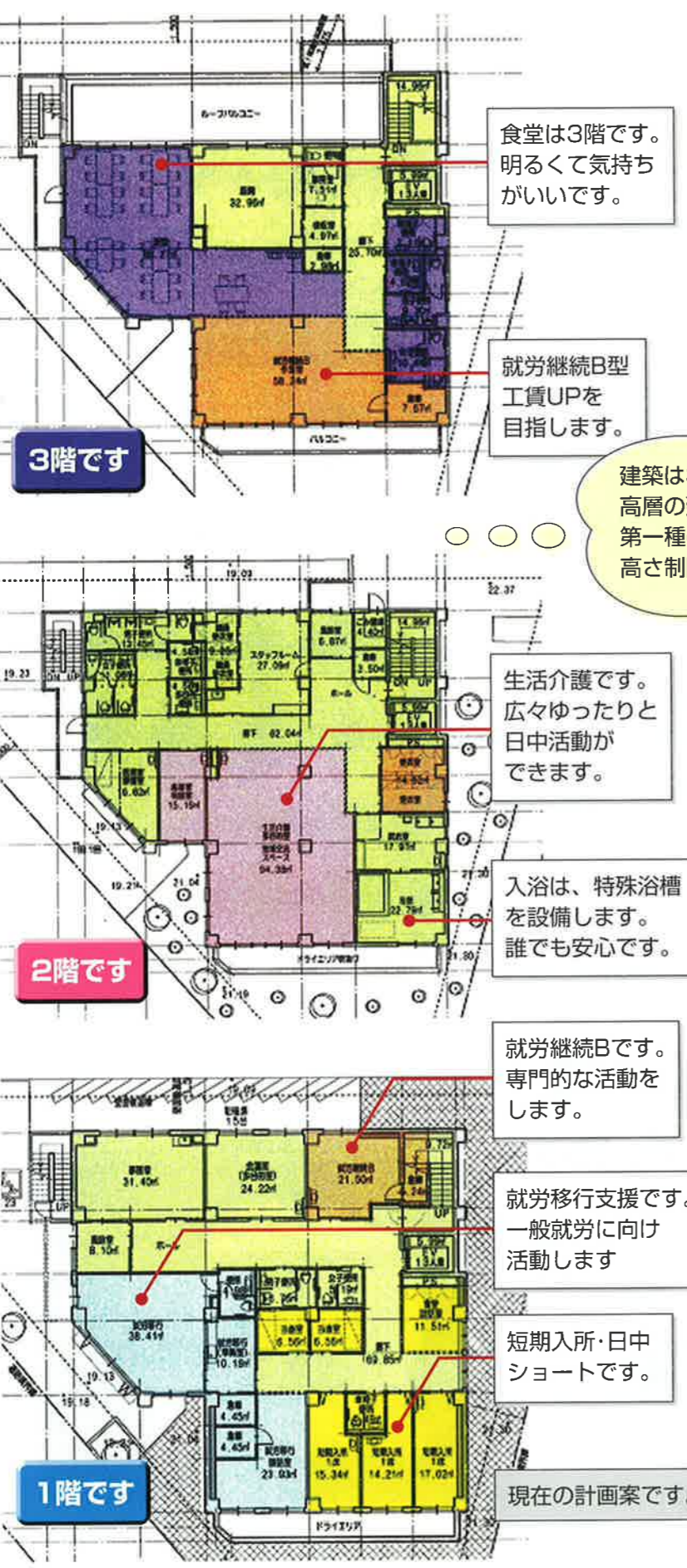
・生活介護事業	20名	障害程度区分3以上の方が利用できます。
・就労移行支援事業	6名	就労希望の方が利用できます。
・就労継続B型支援事業	20名	就労支援を終了した方や50歳以上の方が、利用できます。
・短期入所(日中ショート) 3床		保護者の方の理由で、短期間の利用ができます。
- 建替え計画は、国による国庫補助を受けての事業展開となります。
東京都が窓口となり、事業計画・協議書を作成し、国に協議書を提出し、真に施設整備が必要と認められた場合に、国庫補助が受けられます。他に東京都・世田谷区からの補助があります。また、福祉医療機構からの借入れや法人自己資金を使つての計画になります。

成し遂げよう! 泉の家事業展開

私達は、障がいのある方や家族・保護者の方から必要とされる、地域の方々から信頼され愛される、人と人との関わりを大切に、安心・安全な事業所の建築に向け全力投球しています。
泉の家事業展開は、決して容易いことではありません。国庫補助を受けることは途轍もない責任があります。慎重に計画をする必要があります。国の内示があるのは、二〇〇八年の七月です。まだまだ決めなくてはならないことがあります。福祉の発展に少しでもお役に立てるよう、今後も取り組みますので、相変わらぬご指導・ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

保坂 俊晴

泉の家 IZUMI



一九七七年十一月三日第三種郵便物認可(毎月一、二、三、五、六、七の日十八回発行)
二〇〇七年十一月九日発行(SKKP増刊通巻三六五六号)

—岡本福祉作業ホーム—

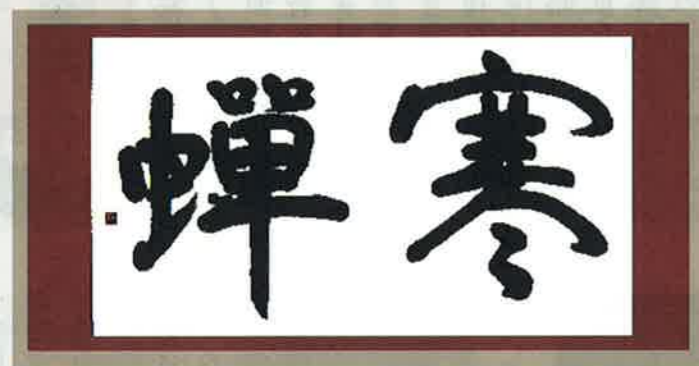


小林 佑介
「お正月」

丸岡 美穂
「サンタさん」



—玉堤分場—



藤島 邦彦
「寒蟬」

小松 正男
「雲海」



一九七七年十一月三日第三種郵便物認可(毎月一、二、三、五、六、七の日十八回発行)
二〇〇七年十一月九日発行(SKKP増刊通巻三六五六号)



—泉の家—



岡田 興寧
「姫路城」

張替 和男
「ねこ」



—日の出舎—



宮原 三郎
「模型飛行機」

小林 久理
「手作りランプ」





楽しい余暇活動を

泉の家では今年度四月から日中の活動内容が少し変わりました。これは、新法(自立支援法)に添った形の施設へ移行するための準備であり、また、利用者の方々も、新しい形での活動を行うことよって、将来に向けての環境の変化にスムーズに対応出来るようになることを意図して行っています。

活動内容は、利用者の方々の、将来の希望・年齢・身体状況によって就労継続B型と生活介護型の活動に分かれており、後者は、午前中は授産活動、午後は専門職の指導によるリハビリや体操、創作活動・ゲーム・ビデオ鑑賞などの余暇的な活動を行っています。

この「余暇的な活動」が結構大変で：現在九名の方が生活介護型での活動を行っているのですが、皆さん趣向は多種多様：職員が持ち込んだ企画に乗る人もいれば、全く興味がない人も。中々全員を惹きつける企画が思いつかず、実

習生の協力を得ながら、毎日悪戦苦闘しております。

ただ、そんな職員の苦勞を知ってか、みなさん、持ち込んだ企画に対しては(少ししか)文句も言わず、笑顔を浮かべて楽しんで：いるようです。

そこで！現在ボランティアを大



今日は書道に挑戦!!

募集しております。趣味で物作りをしている方、以前にしていた方、レクリエーションや歌など教えていただける方など、泉の家で講師として御指導いただけませんか。是非御一報ください。

(福田 公英)



日の出舎一泊旅行の感想

下井宣長さん

九月六～七日、久し振りに日の出舎一泊旅行に行きました。石和温泉は昔よく通っていたので、自分にとってあまり新鮮味はなかったが、今回旅行で行って見たらとてもよかったです。一日目のワイン工場で食べた昼食がとてもおいしかったです。でもワインを飲むことができなかったとしても残念でした。また雨が降っていたので、トイレがすごく大変でした。しかしやっと着いたホテル石庭はとても立派なホテルで、夜の宴会はおいしい夕食を食べ、歌を歌い、最高によかったです。カラオケで商品券を買えたのが嬉しかったです。温泉に入る際には、職員に色々助けってもらってゆつくり入ることができ、とても助かりました。また部屋のベットではよく寝られたので、最高によかったです。

二日目はとても天気がよかったです。サファリパークでは、ボランティアの方たちに写真をとってもらいました。また、いつもは買わないのに、珍しく小さなぬいぐるみをお土産に買いました。ぬいぐるみは部屋に飾ってあります。

天気が悪く人数が少ない中、職員は大変だったと思いますが、二日間楽しく過ごせて満足でした。また旅行に行きたいので、期待しています。(代筆 長内)



ご利用者・職員みんなで記念撮影



パソコン室の新しいアイドル

成城ロータリークラブ様よりカラーレーザープリンターをご寄付頂きました。現在のパソコン作業は名刺印刷、ポストカード印刷、各種挨拶ハガキ、ポストカードカレンダー印刷などがあります。



新しいプリンターは早い早い!!

毎年、インクジェットプリンター、顔料インクプリンターを併用して運用してきましたが、速度が遅く、また紙詰まりもしやすいため何度もプリンターが動かない状態がありました。印刷するときにはプリンターのご機嫌を損ねないように慎重に使っていました。「レーザープリンターがあると速く作業できるのね」との声が寄せられていました。この度ご利用者、職員の願いが成城ロータリークラブ様のご寄付によりかないました。ありがとうございます。

ご利用者からは「印刷のスピードが速い！印刷画質がキレイ！」とレーザープリンターで初めてプリントアウトしたときに歓声がありました。名刺印刷、ポストカードカレンダー印刷は以前の約五倍以上のスピードです。さらにご利用者がプリンターを使いやすいようにと職員お手製のプリンター台とパソコン卓もそろいプリンターのインフラ整備も万全です。これからもレーザープリンターを活用して様々な作業を売上向上を目指します。(有馬 恵子)



発足！「玉堤オールスターズ」

一九九二年に開設した玉堤分場には、長い間ご利用者の会がありませんでした。ごく初期の頃には、有志で活動していた時期もあるのですが、利用者の入退所での間に立ち消えになったままだったのです。

ご利用者は、途中で障がいを持ったため、自分のことではいっぱいということもあり、グループ活動は積極的にすすめてこなかったのですが、せっかく皆さん同じ場所です活動するのだから、と五年前から意識してグループ活動を行ってきました。一緒に活動する場面を作ればご利用者同士のかかわりを持てることかわかり、作業会議や全体会などに幅を広げていきました。

一年半前に施設から提案したときは「いらないんじゃないの？」という意見が多く、見送っています。全体会ごとに提案し「あってもいいんじゃない」

という同意をいただき、今年四月には世話人を今井さん・小松さんにお願ひして準備にかかりました。会の名前も募集し、みんなが輝く星にということに「玉堤オールスターズ」に決定。世話人の今井さん・小松さんが提案した会則も承認され、一回目のイベントは、野外で芋煮会となりました。「利用者による利用者のための利用者の会です。会員相互の暖かい思いやりで、明るくやさしい、くつろぎの空間を作っていきますよ」という会則前文にあるように、素敵な会にしていきたいと思います。(上原 絹代)



多数決により玉堤オールスターズに命名

一九七七年十二月三日第三種郵便物認可(毎月一、二、三、五、六、七の日十八回発行)
二〇〇七年十一月九日発行(SKKP増刊通巻二六五六号)



大森 建悦さん

おめでとーございます。
本年秋の叙勲、大森建悦様
瑞宝単光章受章
自ら重い障がい克服された自立更生と、長年の社会福祉功労が認められ、叙勲を受けられました。

今回は一九七三年から十年間泉の家施設長をされていた大森様

を、世田谷区大蔵のお宅を訪ねお話を伺いました。

五歳で腰椎カリエス発病、一時治癒、小学校卒業を前に、鉄棒より落下、長期在宅療養。二十七歳時、専門医師から歩行困難と診断されるも独自でリハビリ訓練し、二十九歳で自立歩行を実現。三十歳で国立身体障害者センターへ入所、木彫技術を学ぶ。三十四歳までプロ彫刻家に師事し、専門技術を磨く。

昭和三十三年十一月、世田谷区大蔵にある社会福祉法人泉会が開所、都内初の身体障がい者対象、生活保護授産施設に作業指導員として勤務いたしました。

昭和三十五年九月、身体障害者収容授産施設に切り替わる。泉の家利用者が、幼少期に端を発する全身性障がいの方が多くなり、就職につながる職業訓練が困難となり、生産性は低くとも誰でも参加できる簡易作業を企業の協力を得て導入を図りました。

脳性麻痺等の全身性障がい者を対象に「障がいの重い人々こそ施設に迎えなくては」との考えで、作業工程を分解し、重い障がいを負う人を組み込んだり、作業

科目に経理事務を取り入れて訓練を実施した。施設長を退任する昭和五十八年七月までの二十六年間に、仕事、生活全般のよき相談者となり得るよう、夢と希望を失いかける利用者たちを叱咤激励し、自暴自棄から自ら命を絶とうとする者を何人も思いとどまらせることが出来ました。大蔵泉の家、岡本泉の家で入所二八〇名超、通所二〇名弱の障がい者の職業リハビリテーションを推進しました。

昭和三十三年十一月より五月、日本社会事業短期大学に身体障害者福祉司講座を受講するため、生活していた大蔵泉の家から、松葉杖でバスと電車で毎日終業後通学したこともありました。この苦しい経験が基となって自動車運転免許取得の思いが募り、我が国での障がい者免許取得の実現を見る機会ともなりました。

地震報道のたびに、老朽激しい現在の泉の家は無事か、いつも気にかけています。今般建て替え計画が進んでいると聞いて、何とか間に合うようにと願っています。敷地も狭く、入所部門が計画できないとのこと、入所を必要とする方はこれからも続くと思わ

れ、どのような生活の場が考えられるのかと心配になります。五十四年間、社会福祉法人泉会が神様の豊かな恵みと祝福を受けて続いてきたことを感謝し、これから始まる歩みが神様に喜ばれ、必要な物を備えてくださることを祈っています。

お知らせ

《岡本ホームより》

『岡本福祉作業ホーム作品展』

キラキラ'08開催

期間 二〇〇八年一月二十二日より
一月二十七日まで
場所 三軒茶屋駅キャロットタワー4階
岡本ホームの今年度の集大成!!ぜひ足をお運び下さい。



ポストカードカレンダー
2008発売中!!
定価1000円
名入れ印刷うけたまり
ます。(岡本ホーム)

《玉堤分場より》

施設公開行事

「地域と共に」開催

日にち 二〇〇八年一月一日(土)

場所 玉堤分場

クッキーの型抜き、サンドブラストなどの体験が出来ます。みなさん遊びに来て下さい。

発行所 障害者団体定期刊行物協会 領福五十町
東京都世田谷区砧六の二六の二
編集人 社会福祉法人 泉会